

# 大学教育支援

## 文科省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択

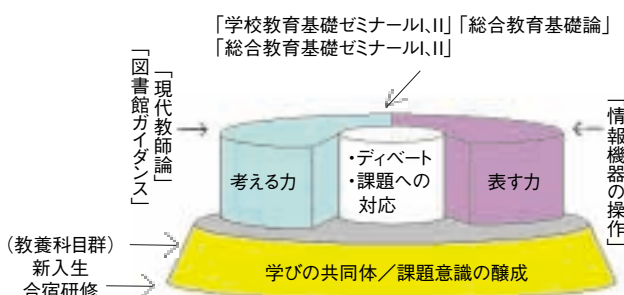
副学長(教学担当) 上野ひろ美

教育面での大学の優れた取り組みを募集し、予算を重点配分する文部科学省の新規事業「特色ある大学教育支援プログラム」に本学の教育が選ばれました。

全国の大学・短大からの応募が六百六十四件に達したなかで、八十件が採択されるという狭き門でした。全国の国立教育系大学で唯一、また奈良県で本学のみが採択されました。地元の大学・短大が採択されなかった空白県が十四県に及んだことを考えれば、地元の高等教育に大きく貢献することができました。

本学が応募した教育プログラムは「現代的課題に対応する導入教育科目群の展開——考える力」「表す力」の育成をめざした教育者養成——です。入学直後の一回生を対象とした授業を、大学教育へ、専門教育へと導く「導入教育科目群」として位置付けて展開し、教育の現代的課題に対応する力の育成を図っている取組です。導入教育科目群の構造は図のとおりです。

現代的課題に対応する導入教育科目群の構造



導入教育科目群の核として、「学校教育基礎ゼミナールⅠ」と「総合教育基礎論」の二つの授業を掲げました。

「学校教育基礎ゼミナールⅠ」は、教員養成課程の一回生百三十名全員を対象としたディベート中心の演習型の体験授業で、現代的課題に対する問題意識、論理的思考力、資料収集力、表現力、組織力の育成をめざしています。

「総合教育基礎論」は、総合教育課程の一回生百二十五名全員を対象とした、環境、文化、情報、健康など教育の現代的課題に対する問題意識を培う講義形式の入門的授業で、思考力、表現力、行動力、想像力の獲得をめざしています。

いずれも十名前後の、専門を異にする教員が共同で指導するＴＴ(ティームティーチング)体制をとり、目的に即した教育効果をあげ、実践報告書も多数、公開しています。

本学では平成十一年の学部改組以来、学校教育教員養成課程と総合教育課程の二課程で学生が学んでおり、二課程に共通した目標は「有能な教育者の養成」にあります。平成十六年からの国立大学法人への移行にあたっての中期目標にもこの目標を掲げています。

このたび本学が採択されるにあたっては、有能な教育者の養成のために、学生に、自ら学ぶ方を学ぶ能力、十分な表現力及び、コミュニケーション能力の向上をねらい、その達成のために

工夫と努力をこらした全学的導入教育科目群を設置していることが評価されました。個々の授業の工夫を含めて他大学の参考となるとともに、大学のみならず高校、地域、企業などへの公開性も期待されています。

今回の採択は、本学の教員が改組以降、大学の激変に多忙さを極めるなかで地道な努力を重ねた教育活動が認められたものであり、喜びに堪えません。学生諸君や保護者、地域の方に広く伝え、自信と誇りをもっていつそうの教育改革に邁進する所存です。



ディベート大会風景